

日本高等教育学会 第28回大会 大会プログラム

(2025年5月15日版 ver.2)



2025年5月31日(土)・6月1日(日)

会場：九州大学伊都キャンパス イーストゾーン

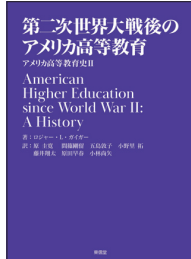
The 28th Annual Meeting
JAHER
Japanese Association of Higher Education Research
日本高等教育学会



官邸主導時代の高等教育政策

—変貌の諸相と課題
日本高等教育学会会長プロジェクトチーム・羽田貴史編著
A 5・352 頁・3960 円

2010 年代以降、高等教育の政策・決定での文科省の役割が低下し、内閣（官邸）の影響力が強化された。そこで政府・大学関係者らへのインタビュー調査、海外事例との比較分析、国公私大ごとの影響の差異等、多角的視座からその構造転換の実態を捉え、激変時代の高等教育の行政と政策を提言した関係者必読書！



第二次世界大戦後のアメリカ高等教育

—アメリカ高等教育史Ⅱ
ロジャー・L・ガイガー著
A 5・528 頁・7040 円
原主寛、間篠剛留、五島敦子他著

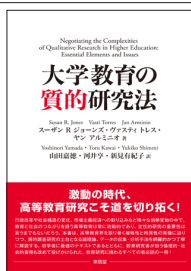
第二次大戦後の冷戦構造下、宇宙開発分野におけるソ連の先進性を見せつけられた衝撃によってアメリカの高等教育界は改革を迫られた。Ⅱ巻目にあたりⅠ巻『アメリカ高等教育史』の索引も収録。Ⅰ巻Ⅱ巻合わせてアメリカ高等教育の400年間の制度と社会を俯瞰できる壮大なドラマ、比類なき通史。



アメリカ高等教育史

—その創立から第二次世界大戦までの学術と文化
R・L・ガイガー著
A 5・744 頁・9460 円
原主寛、間篠剛留、五島敦子、小野里拓、藤井翔太、原田早春訳

17 世紀半ば頃のカレッジ創設から米国の高等教育史は始まった。創設期以降、啓蒙思想の拡がり、宗教教育から科学技術の発展、世界大戦突入へ進む米国の高等教育は様々な改革を遂げてきた。その複雑・多様な歴史のダイナミズムを創設期から丁寧に綴った待望の訳書！



大学教育の質的研究法

スーザン・R・ジョーンズ、ヴァスティ・トレス、ヤン・アルミニオ著
山田嘉徳・河井亨・新見有紀子翻訳
A 5・472 頁・5280 円

高等教育界を取り巻く複雑性と特異性の実像に迫りつつ、質的調査研究の土台となる諸理論、データの収集・分析手法を網羅的かつ丁寧に解説する。初学者に最適のテキストであるとともに、教育研究者が担う倫理的・社会的責務も改めて投げかけられた、教育研究に携わる関係者の必読の一冊。

早瀬博典著
アメリカ社会科のインクルージョン理念と方略
A 5・二七二頁・四六二〇円

神内陽子著
インドネシアの少年非行と教育
A 5・五五二頁・九七九〇円

溝上慎一編著
マネジメントの組織化に向けて
A 5・一六四頁・二二〇〇円

奥村旅人著
学校教育目標のアセスメントとカリキュラム・マネジメント
A 5・二九六頁・四六二〇円

徳島祐彌著
労働学校における生の充溢
A 5・三三〇頁・三七四〇円

慎司編著
アメリカの体育カリキュラム設計論
A 5・二八〇頁・二九七〇円

南浦涼介・三代純平・石井英真・中川祐治・佐藤渡部竜也著
人と社会をつなぐ評価
A 5・四一六頁・五五〇〇円

潘秋静著
教室で論争問題を立憲主義的に議論しよう
A 5・二八八頁・五九四〇円

中国独立学院制度の発足・普及・変貌
A 5・二八八頁・五九四〇円

日本の大学の知図

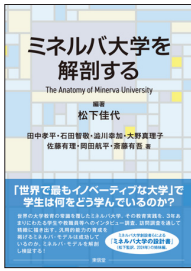
—大学再生の思想
絹川正吉著
A 5・336 頁・4180 円

「選択と集中」に基づいた資金配等、科学技術開発を重点化した国家主導の大学政策によって、基礎研究やリベラルアーツ教育が軽視されている。日本の大学の現在と未来を眺望し、特に学士課程におけるリベラルアーツ教育の重要性を改めて唱え、大学政策の在り方を再考する。

ミネルバ大学を解剖する

松下佳代編著
A 5・328 頁・3520 円

世界の大学教育の常識を覆したミネルバ大学。その設立から十数年経った今、実際はどうか。本大学の教育実践を3年にわたり、大学目標はじめ、カリキュラム、学習評価、授業、課外活動、教職員、学生の学び等、訪問・インタビュー調査を通じて、「設計書」を検証し、日本の大学へのインパクトを解明する。



目 次

ごあいさつ（第 28 回大会実行委員長 木村 拓也）	2
大会日程	3
大会参加のご案内	4
発表者へのお願い	7
司会者へのお願い	8
会場へのアクセス	9
第 28 回大会 対面会場 全体配置図（九州大学）	14
会場一覧	16
学会会場 配置図（教室棟）	17
会場別プログラム	18
自由研究発表（一般発表）Ⅰ	20
自由研究発表（一般発表）Ⅱ	23
自由研究発表（一般発表）Ⅲ	26
課題研究	30
大会校企画 公開シンポジウム	34
国際委員会主催企画 ランチミーティング	35

ごあいさつ

この度、2025年5月31日(土)・6月1日(日)に日本高等教育学会第28回大会を九州大学伊都キャンパスイーストゾーンにおきまして、人間環境学研究院・教育学部、基幹教育院次世代大学教育開発センターの協力のもと、開催させて頂くことになりました。2023年秋に大会校のお話を頂いて以来、大会実行委員会では、参加者の皆様の交流がより一層深まり、新たな知のネットワークが生まれるような学会大会を目指し、鋭意準備を進めて参りました。

第28回大会では、18部会61件の自由研究発表が予定されております。また、国際委員会主催による2つのランチミーティングや、前回の大会で再開しました懇親会も開催します。これらの場を通じて、我が国の高等教育を巡る有意義な議論と新たな交流が生まれることを期待しております。

5月31日に予定しております学会主催の2つの課題研究では、「学生と大学：学生参画のアプローチ」、「高等教育の政治化とファンディングの国際比較」と題して、昨年の課題研究に引き続き、大変重要なテーマが議論されます。

6月1日は、大会校企画として「大学を開く：学問分野間・組織間・社会へ」を公開シンポジウムとして開催します。北村隆行先生、佐古秀一先生、内布敦子先生をお招きし、文部科学省高等教育局長の伊藤学司氏をコメンテーターに、深堀聰子会員をモデレータとするパネルディスカッションを予定しています。学問分野・大学組織・大学と職業社会の連携を通して大学を「開く」という切り口から、人材育成を担う中核組織としての大学の機能を強化していく方策について議論することで、日本の大学の未来を構想する手がかかりを得る機会となればと思います。公開シンポジウムは、ウェビナーでオンライン配信も行う予定ですので必要に応じてご利用ください。

本大会は、会員のみならず、非会員の方も参加可能としています。大会が開催される本学の伊都キャンパスは、JR九大学研都市駅よりバスで15分の位置にあります。福岡は、JR博多駅と福岡空港が近接する非常に交通の便のよい立地となっています。福岡市営地下鉄空港線から乗り入れしているJR筑肥線にあるJR九大学研都市駅にも、JR博多駅と福岡空港から乗り換えなくお越しいただくことができます。

時間が許せば、少し電車にゆられ、太宰府や九州国立博物館等のある歴史ある福岡の街の中で、研究談義や思索に耽り、美味しい博多名物をお召し上がりながら、有意義な時間をお過ごし頂くことも出来るかと思えます。5月15日(水)まで参加申し込みを受け付けておりますので、是非、多くの方の来福、ご参加をお待ちしております。

本大会が参加者の皆様の新しい発見やインスピレーションを得る場となることを願っています。5月の学会大会で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

日本高等教育学会 第28回大会実行委員会
委員長 木村 拓也

大会日程

6月1日の(※)は、対面・オンライン併用のイベント（オンライン参加可能）
無印は、対面会場のみでのイベント

5月31日（土）

時間	内容	会場
9:15 ~	受 付	学生サロン 手前
10:00 ~ 12:00	自由研究発表（一般発表）Ⅰ	イースト1号館・2号館
12:10 ~ 12:55	国際委員会主催 ランチミーティングⅠ 「留学生・外国人研究者との交流」	イースト2号館 D-107教室
	国際委員会主催 ランチミーティングⅡ 「海外での調査や滞在に関する情報共有」	イースト2号館 D-106教室
	課題研究Ⅰ 「学生と大学 学生参画のアプローチ」	イーストゾーン 大講義室Ⅰ
13:00 ~ 15:00	課題研究Ⅱ 「高等教育の政治化とファンディングの 国際比較」	イーストゾーン 大講義室Ⅰ
15:15 ~ 17:15	懇親会	COOP Main Dining (地階食堂)
17:30 ~ 19:30		
(12:05 ~ 12:45	課題研究Ⅰ打ち合わせ：イースト1号館	B-103教室)
(12:05 ~ 12:45	課題研究Ⅱ打ち合わせ：イースト1号館	B-104教室)

6月1日（日）

時間	内容	会場
8:30 ~	受 付	学生サロン 手前
9:00 ~ 11:00	自由研究発表（一般発表）Ⅱ	イースト1号館・2号館
11:10 ~ 12:30	自由研究発表（一般発表）Ⅲ	
12:30 ~ 13:15	昼食休憩	
13:15 ~ 14:00	総会 (※)	イーストゾーン 大講義室Ⅰ
14:15 ~ 16:45	公開シンポジウム (※) 「大学を開く -学問分野間・組織間・社会へ-」	イーストゾーン 大講義室Ⅰ
(12:35 ~ 13:10	総会打ち合わせ：イースト1号館	B-103教室)
(12:15 ~ 14:00	公開シンポジウム打ち合わせ：イースト1号館	B-104教室)

大会参加のご案内

<大会形式>

九州大学伊都キャンパスイーストゾーンを会場とした対面実施で開催します。総会及び公開シンポジウムのみ、一部オンラインを併用するハイブリッド形式で開催します。

会場 九州大学 伊都キャンパス イーストゾーン

「日本高等教育学会第28回大会参加者用ページ」として、日本高等教育学会が利用しているガリレオ社のSOLTIシステムを利用し、日本高等教育学会ウェブサイト(<https://jaher-web.jp>)の「会員情報管理システム」からアクセスいただきます。「日本高等教育学会第28回大会参加者用ページ」は参加者の方々に、第28回大会に関する情報を一元的に提示するプラットフォームであり、要旨集録、課題研究と大会校企画シンポジウムのウェビナーURLなどの情報を掲載します。

<実施方法>

- ・ 第28回大会では、「自由研究発表（一般発表）」のみ設けます。
- ・ 課題研究は、対面会場での実施を予定しています。
- ・ 大会校企画は、公開企画として、対面会場での実施とともに、ウェビナー方式によるオンライン同時配信を予定しています。
- ・ 参加申込等の各種手続き、要旨集録の配布等は原則としてオンラインとします。
- ・

イベント区分	対面参加	オンライン参加
自由研究発表（一般発表）	○	×
国際委員会主催 ランチミーティング	○	×
課題研究	○	×
大会校企画 公開シンポジウム	○	○

<大会に関する情報提供・ウェブサイト>

大会に関する情報は、日本高等教育学会のウェブサイト「大会案内」をご参照ください。

<https://jaher-web.jp/conference/28/>

<大会参加費>

- ・ 大会参加費： 5,000 円（会員・臨時会員／対面参加共通）
懇親会費： 6,000円（事前申込制）
*会員でない方（非会員）も臨時会員として、上記と同じ金額で参加できます。
臨時会員の方の参加手続きも会員と同様に下記の方法となります。

- ・ 大会参加費の支払いは原則、「大会参加申込システム」上でのクレジット決済となります。クレジット決済ができない方は、大会参加費の支払い方法をご案内します。大会実行委員会までメールでお知らせください。
- ・ 大会参加費5,000円について、会員は不課税、臨時会員は税込です。また、懇親会費6,000円は参加種別を問わず税込です。
- ・ 決済完了後の返金はいたしません。
- ・ 領収書は「大会参加申込システム」上から PDF ファイルで取得できます。（「大会参加費」と「懇親会費」とでPDFファイルが分かれています）
- ・ 学会大会当日の大会会場での現金による参加費の受付は行いません。
- ・ 懇親会終了後、九大学研都市駅までの大型バス（55人乗り）を3台準備いたします。
- ・ 公開シンポジウム（大会校企画）のみ参加希望の場合は、参加費は無料とします。参加申し込み時に、「大会参加申込システム」からそのことを選択してください。

<大会参加手続き（会員・非会員ともに同じ方法です）>

- ・ 日本高等教育学会ウェブサイト(<https://jaher-web.jp>)の「大会参加申込システム」に従い必要事項を入力し、大会参加登録と大会参加費のお支払い手続きを行ってください。
- ・ 参加申し込み・参加費支払いの期間は、2025年 2月 1日(土)～5月15日(木) 18:00 です(厳守)。
- ・ 大会参加の申し込み・参加費支払いが完了すると、ご指定のメールアドレスに受領メールを送信します。メールが受信できていない場合、手続きが完了していない可能性があります。必ずご確認ください。なお、クレジット決済以外による参加費のお支払いの場合は、ご入金確認に2,3営業日程度を要します。
- ・ 大会参加費のお支払いが完了した方は、対面会場での大会参加とともに、要旨集録のダウンロードと課題研究及び公開シンポジウムへのアクセスが可能となります。なお、自由研究発表（一般発表）の傍聴は対面参加者のみ可能であり、オンラインでの配信や録画映像の配信は行いませんので予めご了承の上、参加申し込みをしてください。
- ・ 本学会の会員ではない方（非会員）も、臨時会員として大会に参加することができます。

<公開シンポジウムのみの参加の場合>

- ・ 公開シンポジウム（大会校企画）のみ参加希望の場合は、参加費は無料とします。オンラインでの視聴も可能です。参加申し込み時に、「大会参加申込システム」からそのことを選択してください。

<対面会場参加の留意点>

- ・ 宿泊は各自でご手配下さい。
- ・ 両日とも、朝に限り、九大学研都市駅から会場までの大型バス（55人乗り）を3台準備いたします。詳細については、13ページでご案内しております。

- ・九大学研都市駅から九州大学までの路線バスの本数が少ないことにご注意ください。なお、当日は、車での入構も可能です。守衛所で入構料300円をお支払いください。
- ・福岡市営地下鉄内（姪浜駅まで）は、クレジットカードのタッチ決済乗車サービスが利用できますが、最寄駅である九大学研都市駅は、JR筑肥線の駅（福岡市営地下鉄と相互乗り入れ）となりますので、クレジットカードのタッチ決済乗車サービスを利用した場合、下車できません。クレジットカードのタッチ決済乗車サービスをご利用にならないようご注意ください（交通系ICカードは利用できます）。
- ・対面会場内の食堂は土曜日のみ開店の予定です。近隣の飲食店やコンビニエンスストア等をご利用ください。

<対面会場のご案内>

- ・受付： 学生サロン 手前
5月31日（土）09:15-17:00 6月1日（日）08:30-17:00
- ・クローク： 学生サロン 奥
5月31日（土）09:15-17:00 6月1日（日）08:30-17:00
- ・会員控室： B-102教室
- ・大会実行委員会本部： A-105教室
- ・書籍等の展示・販売： 学生サロン 中央

<無線LAN>

- ・接続方法については各会場で掲示します。会場では、無線LANアクセスサービスを大会参加者に提供します。九州大学はeduroamの参加機関であるため、eduroamを使用可能です。

<PC用の電源コンセント>

- ・各会場に備え付けられている電源コンセントには数に限りがあり、充電設備が十分にございません。各自PCの充電を十分にするなど、予めご準備のほどお願い致します。

<その他>

- ・学会年会費：大会会場では、学会年会費の納入はできません。
- ・呼び出し：対面会場での呼び出しは行いません。
- ・写真・動画撮影の注意：対面参加・オンライン参加ともに、発表者の許可なく写真撮影やビデオ撮影（録画）、録音はできません。
- ・クールビズ期間のため、環境への配慮の点からも、軽装での参加を積極的にご検討ください。

<緊急連絡先>

発表者・司会者共に、緊急に連絡が必要な場合（当日欠席の場合など）は、できるだけ早く、大会実行委員会にE-mailにてお知らせください。

第28回大会実行委員会 E-mail：g005jaher-taikai@ml.gakkai.ne.jp

発表者へのお願い

<自由研究発表（一般発表）>

・発表時間及び質疑応答

発表時間は次のように設定しています。

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1人	15分	5分
2人	30分	10分
3人以上	40分	10分

以下の要領で、時間の目安をお知らせします。

【1 鈴】発表終了 5 分前

【2 鈴】発表終了時

【3 鈴】質疑応答終了時

・発表用機械器具

- 発表で使用するPC等の機器は各自ご持参ください。
- 会場には、プロジェクタ（HDMI、15pinVGAアダプタ対応）が備え付けられています。発表部会開始前に動作確認をしてください。なお、Mac等を使用する場合は、上記のケーブルに接続するためのアダプタ等を各自お持ちください。

・配付資料

- 大会実行委員会によるコピーサービスは行いません。自由研究発表用の配付資料等は、各自で必要な部数をご用意いただくか、または、QRコード等を通じて電子データを参加者へご提供ください。

司会者へのお願い

<発表および質疑応答時間>

- ・個々の発表の予定時間を超過しないように時間管理をお願いします。

発表人数	発表時間	質疑応答時間	全ての持ち時間
1人	15分	5分	20分
2人	30分	10分	40分
3人以上	40分	10分	50分

- ・発表者が来ない場合は、その発表は発表取消となります。遅れて来た場合には、該当者の発表時間内であれば発表をお認めいただいても構いません。ただし、発表時間の延長は認められません。
- ・発表が取りやめになった場合は、時間の繰り上げは行わず、プログラムの時間にあわせて次の発表者の発表に進めてください。

<総括討論>

- ・各部会の最後に総括討論の時間を設けておりますが、その配分時間はそれぞれの部会によって異なります。
- ・この時間の活用方法は司会者に一任しておりますので、臨機応変に対応していただきますようお願いいたします。

<発表について>

- ・発表で使用するPC等の機器は、発表者が各自で持参することとなっています。
- ・部会開始前に機器の接続をテストすることをしてありますが、司会の方からもこのことを促していただけますと幸いです。
- ・配付資料は、教室後方に設置します「配付資料置き場」に置くようにしています。

<会場スタッフ>

- ・各会場には、サポートスタッフを配置しております。
- ・会場スタッフは、部会運営の補助として、タイムキーパーやマイク運びを担当します。
- ・会場スタッフは、発表時には、タイムキーパーとして、卓上ベルを用いて時間の目安をお知らせします。

【1鈴】発表終了5分前 【2鈴】発表終了時 【3鈴】質疑応答終了時

- ・その他、司会者の先生から会場スタッフへ指示がありましたら、適宜お伝えください。

会場へのアクセス

会場：九州大学 伊都キャンパス イーストゾーン

住所：〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744

最寄駅：九大学研都市駅下車、バスで約 15 分（「イーストゾーン」下車）

*朝に限り、九大学研都市駅から会場までの大型バス（55 人乗り）を 3 台準備します。

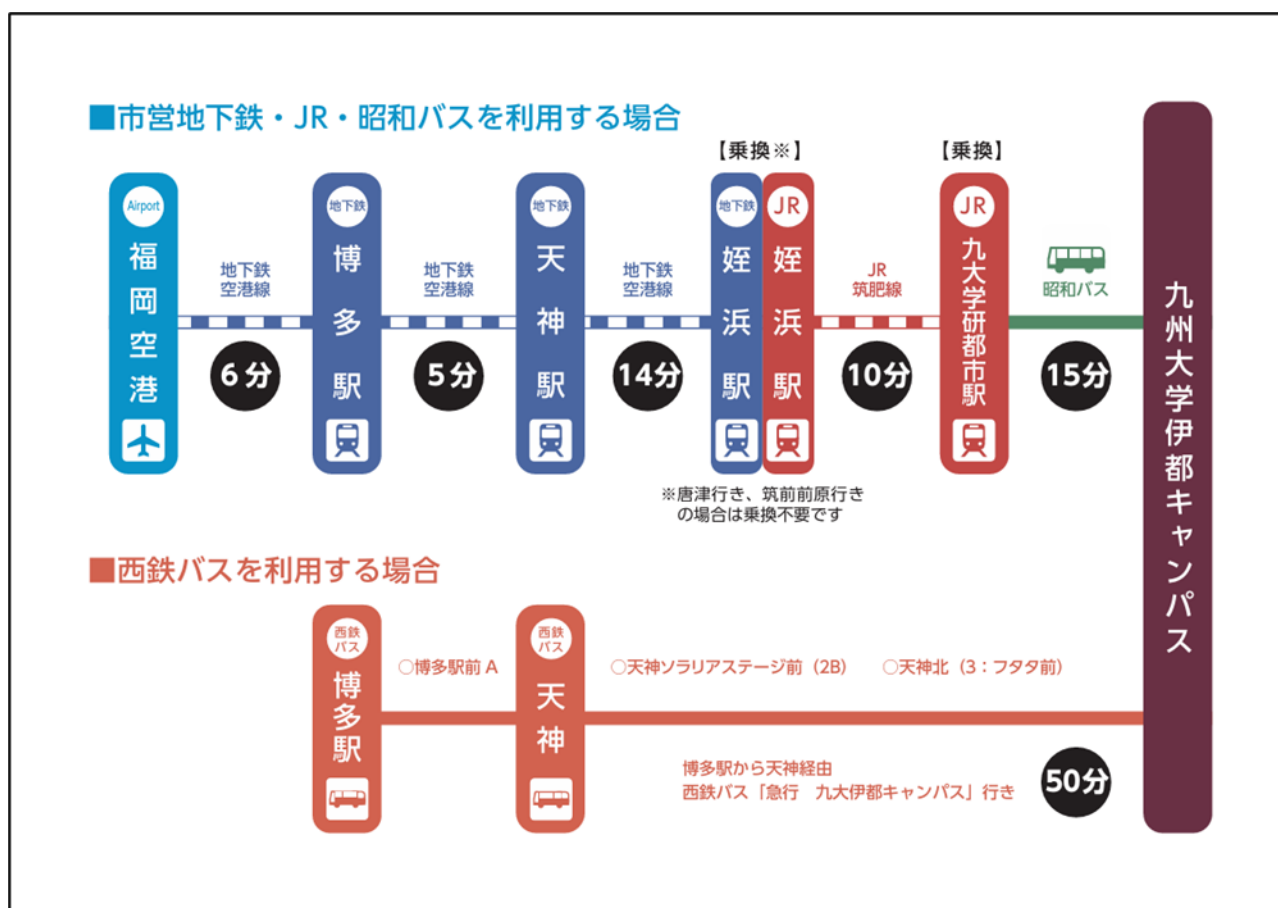
（時刻表は、13 ページに記載しております。）

5 月 31 日（土）は 9 時台、6 月 1 日（日）は 8 時台を予定しています。

*下記の図の通り、博多駅、天神駅から西鉄バスを利用する方法もあります。

路線図

主要駅から九州大学（伊都キャンパス）最寄りの九大学研都市駅までの路線案内です。



九大学研都市駅の時刻表

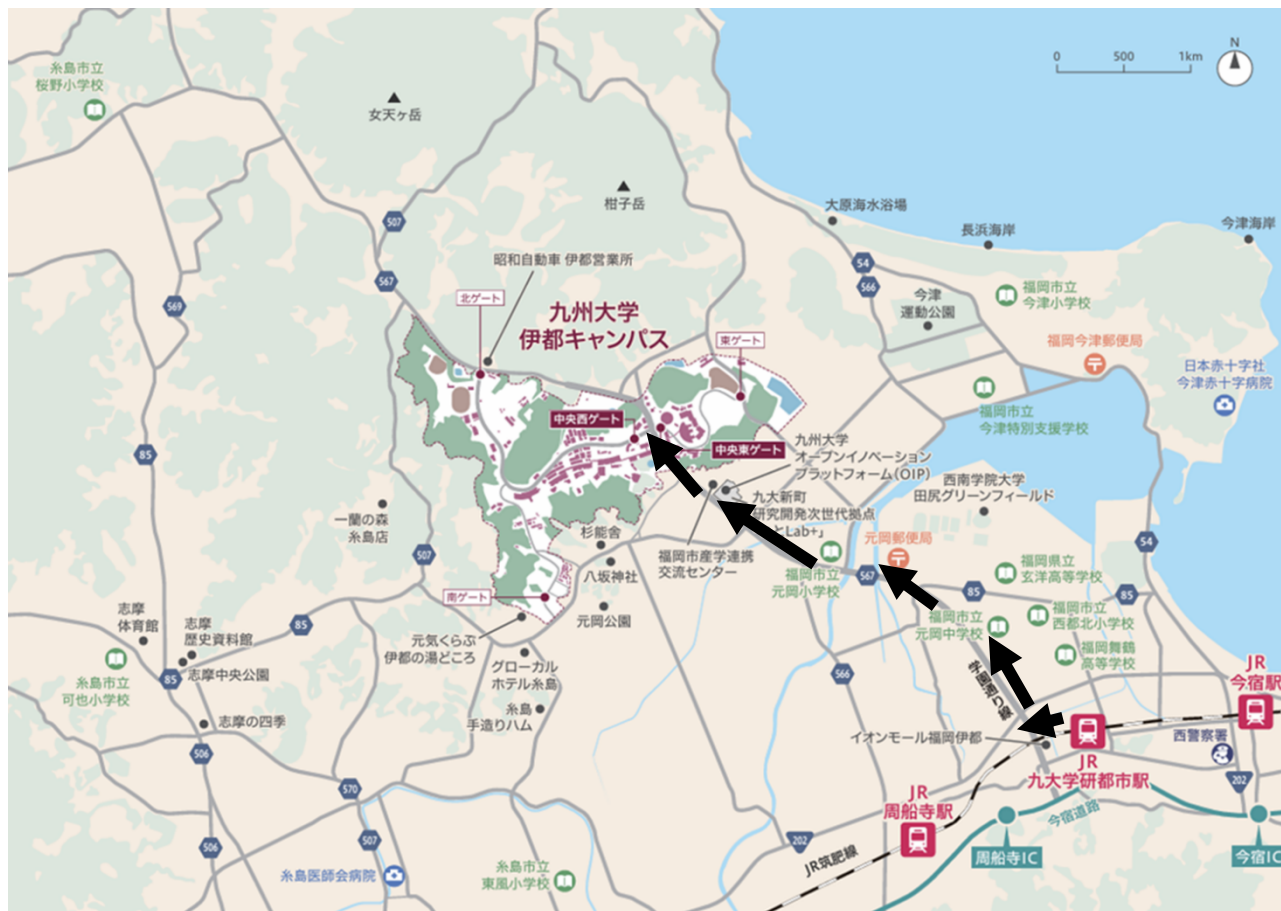
最寄り駅・九大学研都市駅の時刻表です。(4月20日確認)

*以下の情報は参考のため掲載しております。各自、公共交通機関の案内をご確認ください。

土曜日・日曜日ダイヤ

JR筑肥線 九大学研都市駅 時刻表										
	天神・博多・福岡空港方面					西唐津方面				
7	04	21	36	57		09	22	39	58	
8	07	19	31	42	50	22	40	52		
9	07	19	31	44	52	02	15	38	48	55
10	04	19	37	46	56	06	24	37	48	55
11	12	26	42	55		09	22	37	55	
12	12	26	42	56		00	14	28	44	59
13	12	26	44			12	29	44	59	
14	00	13	26	41	56	14	29	44		
15	14	31	44	52		00	17	29	44	58
16	04	25	35	44	51	14	32	48	58	
17	10	25	40	50	57	09	23	38	52	58
18	11	23	40	54		08	27	42	54	
19	13	25	42	56		06	14	28	41	56
20	09	23	40	53		11	30	37	58	
21	04	23	43			13	25	44	57	
22	03	26	55			23	43			
23	21					12	47			
備考	黒・・・福岡空港 赤・・・快速 福岡空港					黒・・・筑前前原 赤・・・快速 西唐津 緑・・・快速 唐津 水色・・・西唐津 紫・・・唐津				

九大学研都市駅からのアクセス（バス約15分）



★車で来学される方

JR 筑肥線九大学研都市駅北口を出て左折し、交差点：学研都市駅西（右側にドミノピザが見えます。）を右折し、学園通り線を直進してください。

★JR 筑肥線・九大学研都市駅よりバスで来学される方

九大学研都市駅北口から大型バスまたは昭和バスをご利用ください。

大型バス（九州大学直通）は、5月31日（土）は9時台、6月1日（日）は8時台にご利用できます。ドラッグコスモスの前からご乗車ください。

昭和バスは、周船寺経由（1番乗り場）、横浜西経由（2番乗り場）、学園通経由（3番乗り場）のいずれかにご乗車ください。

周船寺経由（1番乗り場）は、九大ビッグオレンジ、横浜西経由（2番乗り場）は、九大イーストゾーン（九大中央図書館、九大ビッグオレンジでも可）、学園通経由（3番乗り場）は、九大ビッグオレンジで下車してください。

学園通経由（3番乗り場）の本数が多いです。タクシー乗り場は、九大学研都市駅北口を出て目の前にあります。



最寄り駅・九大学研都市駅のバス時刻表です。(4月20日確認)

*以下の情報は参考のため掲載しております。各自、公共交通機関の案内をご確認ください。

九大学研都市駅→九州大学			
時	周船寺経由 (1 番乗り場)	横浜西経由 (2 番乗り場)	学園通経由 (3 番乗り場)
7	32	20	
8	46	18	06 30 58
9	44	30	08 21 54
10	16	45	01 32
11	01	43	15 28
12	12	54	00 38
13	22	54	08 39
14	24	54	09 38
15	24	54	10 39
16	24	53	04 40
17	20	57	05 33 47
下車	九大ビッグオレンジ	九大イーストゾーン ※九大中央図書館、九大ビッグオレンジでも下車可	九大ビッグオレンジ

学会が手配する・九大学研都市駅からのバス時刻表です。

大型バス時刻表 (九大学研都市駅発／九州大学着)	
5月31日（土）	6月1日（日）
9:05／9:15	8:15／8:25
9:15／9:25	8:25／8:35
9:25／9:35	8:35／8:45

★ バスで帰途につかれる方

バスでJR 筑肥線・九大学研都市駅に向かう場合、九大ビッグオレンジ、九大中央図書館、九大イーストゾーン、九大センターゾーンからご乗車ください。九大ビッグオレンジまたは九大センターゾーンから乗車する便が多いです。

九州大学から九大学研都市駅方面行きのバス時刻表です。(4月20日確認)

*以下の情報は参考のため掲載しております。各自、公共交通機関の案内をご確認ください。

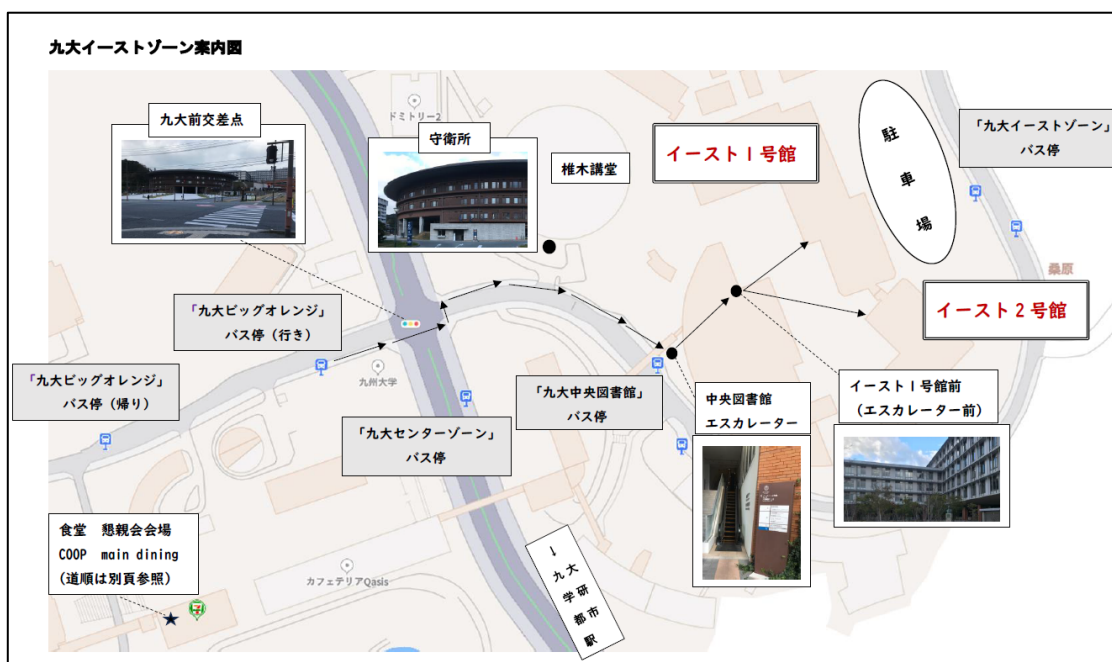
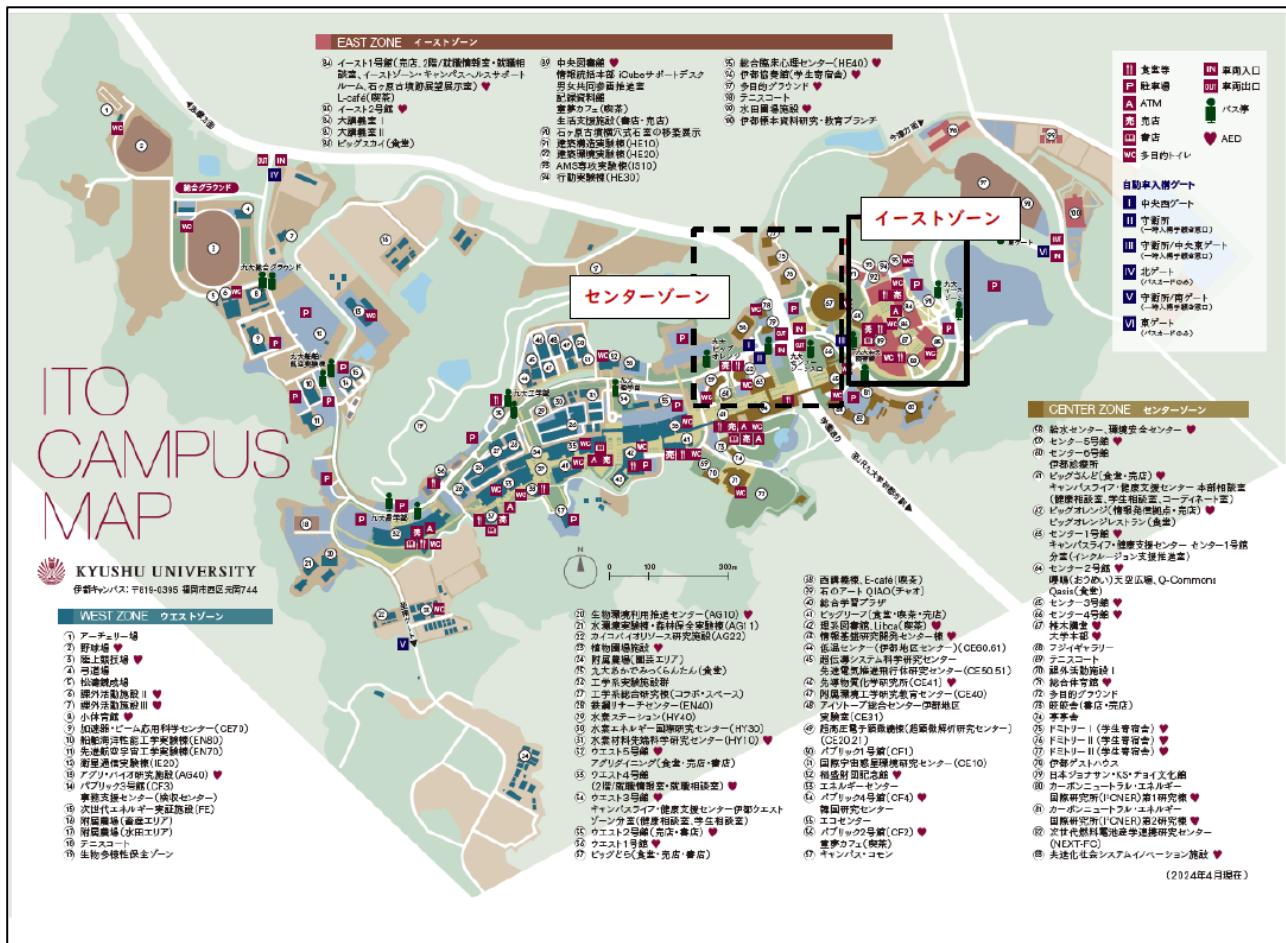
土曜日・日曜日ダイヤ

九州大学→九大学研都市駅				
時	九大ビッグオレンジ	九大中央図書館	九大イーストゾーン	九大センターゾーン
12	16 28 46 53	55	56	17 29 47
13	15 28 44 55	57	58	16 29 45
14	14 26 45 55	57	58	15 27 46
15	15 26 39 55	57	58	16 27 40
16	15 24 43 50	52	53	16 25 44
17	08 23 29 40 44 56	46	47	09 24 30 41 57
18	10 30 44 48	50	51	11 31 45
19	18 24 45 56			19 25 46 57
20	15 41 57			16 42 58
21	15 35			16 36
22	02 24 54			03 25 55

★ タクシーの電話番号

周船寺タクシー	0120-001044
西福岡タクシー	092-806-0333
昭和自動車 タクシー事業部	0120-408-365

第28回大会 対面会場 全体配置図
(九州大学)



★バスで来学される方

- ・「九大ビッグオレンジ」で下車した場合

九州大学前にある交差点を渡り、椎木講堂前を通り過ぎ、中央図書館のエスカレーターで、イーストⅠ号館まで上がってください。

- ・「九大中央図書館」で下車した場合

目の前にある中央図書館のエスカレーターで、イースト1号館前まで上がってください。

- ・「九大イーストゾーン」で下車した場合

下車すると、前に、イースト 1 号館・2 号館が見えます。

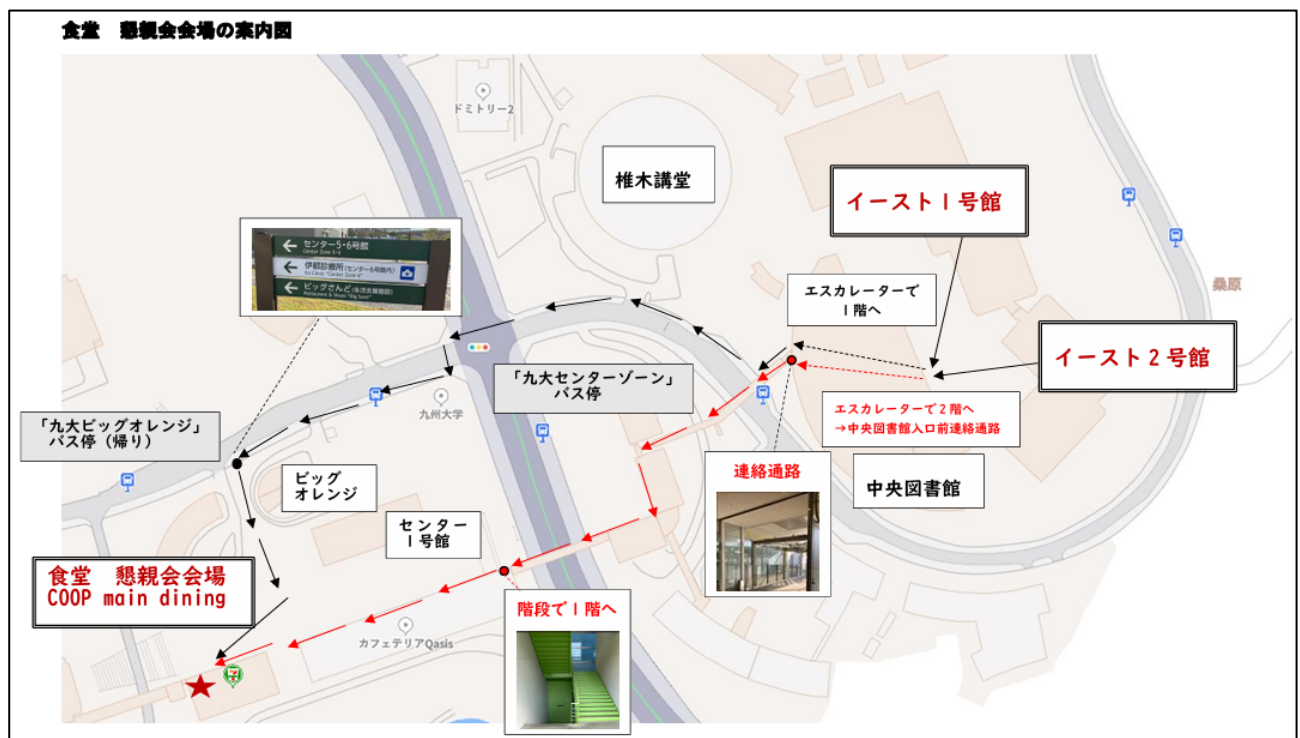
★ 車で来学される方

九州大学前にある交差点を右に曲がり、左手に見える椎木講堂前の「守衛所」で入構料（300円）をお支払いください。ゲートを通り、道なりに進むと、イースト1号館・2号館が左手に見えます。イースト1号館・2号館の前が駐車場です。

★食堂、懇親会会場のご案内★

食堂、懇親会会場は、“COOP main dining”です。食堂は、5月31日（土）のみ開店の予定です。

*大学周辺にコンビニエンスストアはございますが、会場から、最も近いところで徒歩10分ほどかかります。



会場一覧

5月31日（土）

受付：9:15～17:00 イースト1号館・2号館

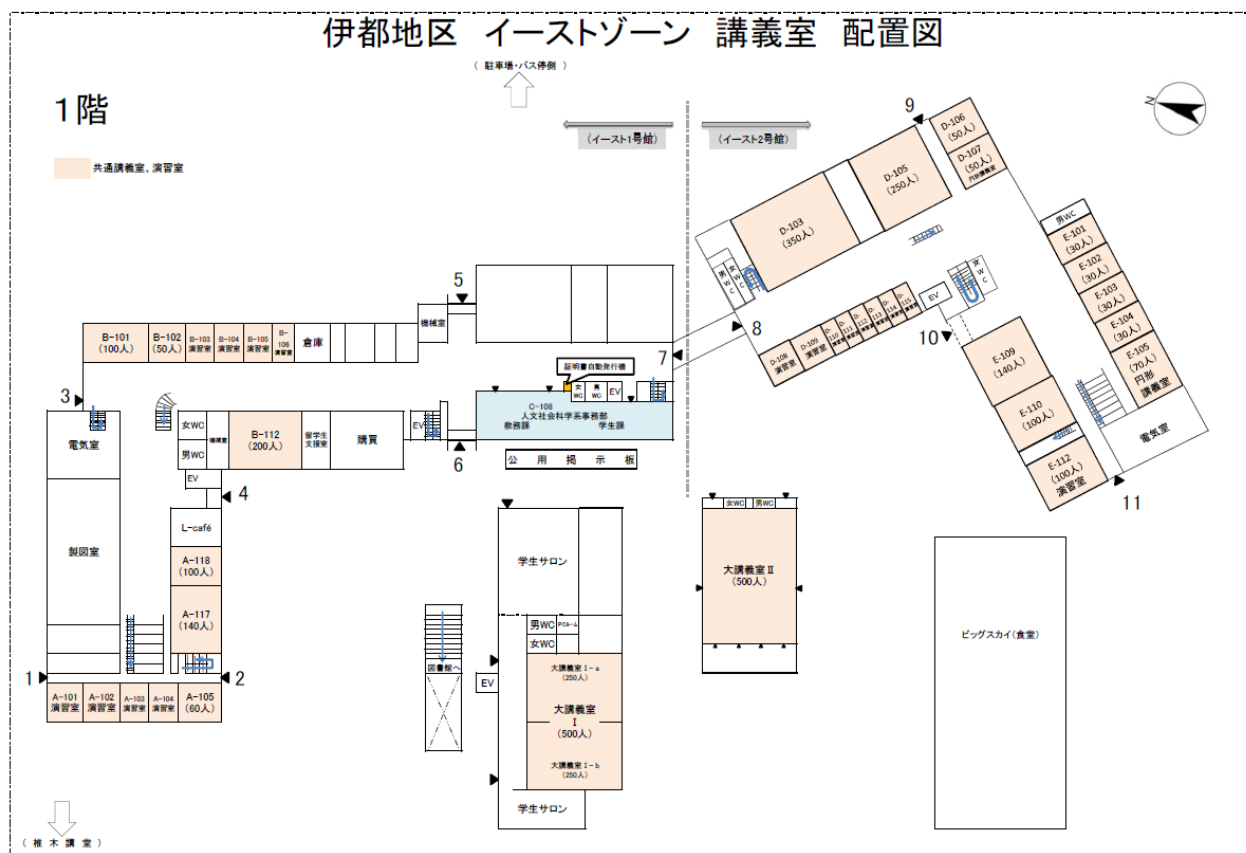
10:00～12:00	
自由研究発表（一般発表）Ⅰ	
I-1 部会	高等教育政策（1号館 A-117教室）
I-2 部会	ガバナンスと組織（1号館 A-118教室）
I-3 部会	到達目標・学修成果（1号館 B-101教室）
I-4 部会	大学の理念と経営（1号館 B-112教室）
I-5 部会	大学院生のキャリア（2号館 E-110教室）
I-6 部会	海外の教育システム（2号館 E-112教室）
12:10～12:55	
国際委員会主催企画 ランチミーティング	
ランチミーティングⅠ	
留学生・外国人研究者との交流（2号館 D-107教室）	
ランチミーティングⅡ	
海外での調査や滞在に関する情報共有（2号館 D-106教室）	
13:00～15:00	
課題研究Ⅰ	
学生と大学 学生参画のアプローチ（イーストゾーン大講義室Ⅰ）	
15:15～17:15	
課題研究Ⅱ	
高等教育の政治化とファンディングの国際比較（イーストゾーン大講義室Ⅰ）	
17:30～19:30	
懇親会（COOP Main Dining 地階食堂）	

6月1日（日）

受付：8:30～17:00 イースト1号館・2号館

9:00～11:00	
自由研究発表（一般発表）Ⅱ	
Ⅱ-1 部会	大学統合と経営（1号館 A-117教室）
Ⅱ-2 部会	大学教育（1号館 A-118教室）
Ⅱ-3 部会	質保証・IR（1号館 B-101教室）
Ⅱ-4 部会	高等教育研究者と組織の展望（1号館 B-112教室）
Ⅱ-5 部会	入試・学生受け入れ（2号館 E-110教室）
Ⅱ-6 部会	教職員（2号館 E-112教室）
11:10～12:30	
自由研究発表（一般発表）Ⅲ	
Ⅲ-1 部会	大学運営と機能強化（1号館 A-117教室）
Ⅲ-2 部会	大学史（1号館 A-118教室）
Ⅲ-3 部会	大学と社会（1号館 B-101教室）
Ⅲ-4 部会	地方大学と政策（1号館 B-112教室）
Ⅲ-5 部会	留学生（2号館 E-110教室）
Ⅲ-6 部会	高校生の海外大学進学（2号館 E-112教室）
13:15～14:00	
総会（イーストゾーン大講義室Ⅰ）	
14:15～16:45	
公開シンポジウム（対面・オンライン併用）	
大学を開く	
—学問分野間・組織間・社会へ—（イーストゾーン大講義室Ⅰ）	

学会会場 教室配置図（教室棟）



会場別プログラム

	5月31日（土） 大会第1日目									
	A-117	A-118	B-101	B-112	E-110	E-112	D-106	D-107	大講義室 I	COOP main Dining
9:30										
10:30	自由研究発表 一般発表 I-1部会 高等教育政策 (10:00-12:00)	自由研究発表 一般発表 I-2部会 ガバナンスと組織 (10:00-12:00)	自由研究発表 一般発表 I-3部会 到達目標・ 学修成果 (10:00-12:00)	自由研究発表 一般発表 I-4部会 大学の理念と 経営 (10:00-12:00)	自由研究発表 一般発表 I-5部会 大学院生のキャリア (10:00-12:00)	自由研究発表 一般発表 I-6部会 海外の教育 システム (10:00-12:00)				
11:30										
12:30							ランチミーティング1 (12:10-12:55)	ランチミーティング2 (12:10-12:55)		
13:30									課題研究 I 学生と大学 学生参画の アプローチ (13:00-15:00)	
14:30										
15:30										
16:30									課題研究 II 高等教育の政治化と ファンディングの 国際比較 (15:15-17:15)	
17:30										
18:30										懇親会 (17:30-19:30)
19:30										

	6月1日（日） 大会第2日目									
	A-117	A-118	B-101	B-112	E-110	E-112	D-106	D-107	大講義室 I	COOP main Dining
9:30	自由研究発表 一般発表 II-1部会 大学統合と 経営 (9:00-11:00)	自由研究発表 一般発表 II-2部会 大学教育 (9:00-11:00)	自由研究発表 一般発表 II-3部会 質保証・IR (9:00-11:00)	自由研究発表 一般発表 II-4部会 高等教育研究者 と組織の展望 (9:00-11:00)	自由研究発表 一般発表 II-5部会 入試・学生受け入れ (9:00-11:00)	自由研究発表 一般発表 II-6部会 教職員 (9:00-11:00)				
10:30										
11:30	自由研究発表 一般発表 III-1部会 大学運営と機能強化 (11:10-12:30)	自由研究発表 一般発表 III-2部会 大学史 (11:10-12:30)	自由研究発表 一般発表 III-3部会 大学と社会 (11:10-12:30)	自由研究発表 一般発表 III-4部会 地方大学と政策 (11:10-12:30)	自由研究発表 一般発表 III-5部会 留学生 (11:10-12:30)	自由研究発表 一般発表 III-6部会 高校生の海外大学進学 (11:10-12:30)				
12:30										
13:30									総会 (13:15-14:00)※	
14:30										
15:30									公開 シンポジウム 大学を聞く ～学問分野間・組織 間・社会へ～ (14:15-16:45) ※	
16:30										

※ 対面・オンライン併用のイベント（オンライン参加可能）

自由研究発表

高等教育政策

司会：丸山和昭（名古屋大学）

- 10:00～10:20 政策的答申の系譜学
－臨教審・大学審から将来像（2005）、グランドデザイン（2018）、そして「知の総和」（2025）まで
○小山竜司（桜美林大学）
- 10:20～11:10 大学設置審査の「課題」と大学設置基準の運用動向
－私立大学における留意事項の内容分析
濱名篤（関西国際大学） ○合田隆史（関西国際大学） ○塚原修一（関西国際大学）
○我妻鉄也（千葉大学） 西田亜希子（関西国際大学） 宮脇大（関西国際大学：非会員）
- 11:10～12:00 総括討論

ガバナンスと組織

司会：山田礼子（同志社大学）

- 10:00～10:20 国立大学における執行部体制の編成とその規定要因
○鈴木拓人（筑波技術大学）
- 10:20～10:40 日本の国立大学の学長と役員のダイバーシティ
－日米の大学長調査との比較を通じて
○井村亜矢（大阪工業大学）
- 10:40～11:00 大学におけるパフォーマンス・ガバナンスに関する一考察
－欧州 SQELT プロジェクトを手がかりに
○杉本和弘（東北大学）
- 11:00～11:20 同僚制規範が改革を抑制する条件に関する実証的研究
○中島英博（立命館大学）
- 11:20～12:00 総括討論

到達目標・学修成果

司会：深堀聰子（九州大学）

- 10:00～10:20 日本の大学教育におけるアセスメントプランの構造的把握に関する考察
－質的統合法（KJ法）等を活用して
○林透（金沢大学）
- 10:20～10:40 法学部のディプロマポリシーと分野別参照基準に示された能力との共通度
－『組織アイデンティティ』を検討するための一考察
○坂巻文彩（長崎外国語大学）
- 10:40～11:30 短期大学における学修成果目標の比較分析
－JCCKスタンダード構築に向けて
○平田孝治（西九州大学短期大学部） ○藪敏晴（佐賀女子短期大学）
○小浦康平（長崎短期大学） 安部恵美子（長崎短期大学）
○中濱雄一郎（香蘭女子短期大学） 吉本圭一（滋慶医療科学大学）
- 11:30～12:00 総括討論

大学の理念と経営

司会：沖清豪（早稲田大学）

- 10:00～10:20 国立大学法人形成過程における大学の自治を巡る議論とその変容
○高見英樹（東京大学）
- 10:20～10:40 企業の大学経営における学問の自由保障の一形態
－アメリカ・カナダにおける労働契約
○羽田貴史（東北大学）
- 10:40～11:00 米国研究大学の財源から学問の社会的基盤を考える
○阿曾沼明裕（東京大学）
- 11:00～11:20 私立高等教育に関する国際比較研究の到達点と日本の位置づけ
○米澤彰純（東北大学） Levy Daniel（SUNY Albany：非会員）
Chau Quang（Vietnam National University Hanoi：非会員）
- 11:20～12:00 総括討論

大学院生のキャリア

司会：吉田文（早稲田大学）

- 10:00～10:20 人文社会系修士課程修了者を新卒採用する企業
－「就職四季報」の経年比較
○二宮祐（群馬大学）
- 10:20～10:40 日本における博士人材のキャリアと課題
－博士人材追跡調査（JD-Pro）から見る博士人材のキャリアトレンド
○川村真理（文部科学省）
- 10:40～11:00 ポストドクターのキャリア形成に当たる意識変容に関する研究
－非研究職ポストを事例として
○三好登（立命館アジア太平洋大学）
- 11:00～11:40 海外博士号取得者のその後
－教育・キャリア流動が研究生産性に与える影響
○松塚ゆかり（一橋大学） ○孟碩洋（一橋大学）
- 11:40～12:00 総括討論

海外の教育システム

司会：杉谷祐美子（青山学院大学）

- 10:00～10:20 OBEを展開するカンボジア私立大学のレゾンデートル
○戸田千速（前東京大学大学院） 釜我昌武（KITカンボジア：非会員）
- 10:20～10:40 アメリカ合衆国における大学教育と生成AI
○高野篤子（大正大学）
- 10:40～11:00 米国の高等教育における教育機会プログラム
カリフォルニア州3大学の事例から
○萩原絵理香（東京大学）
- 11:00～11:40 北米の大学の学生寮におけるRAの実態と養成に関する考察
－実践事例の調査から
○蝶慎一（香川大学） ○安部有紀子（名古屋大学）
- 11:40～12:00 総括討論

大学統合と経営

司会：立石慎治（筑波大学）

- 09:00～09:20 大学地域配置に対する地域住民の現状認識と将来意向の地域間比較：東京都と石川県を対象にして
ー計画的な縮退は可能か
○寺田悠希（高知大学）
- 09:20～09:40 特定地域への意味付けの違いによる大学・短大の立地行動
ー千葉県の3大学を事例として
○白水晶子（東京大学大学院）
- 09:40～10:00 日本における大学統合がもたらす学生／卒業生アイデンティティの揺らぎ
○古畑翼（信州大学）
- ~~10:00～10:20 小規模私立大学の経営（発表辞退）
ーなぜ小規模私立大学は経営困難に陥るか？
○磯田文雄（花園大学）~~
- 10:00～11:00 総括討論

大学教育

司会：中井俊樹（愛媛大学）

- 09:00～09:20 課題解決型授業における社会調査リテラシーの育成に関する問題点
ー授業の成果報告書の分析から教員の教育責任を問う
○小山治（京都産業大学）
- 09:20～09:40 大学教育としての地域志向教育
ー学士課程における全学横断的地域志向教育プログラムの位置付けに注目して
○出口英樹（鹿児島大学）
- 09:40～10:30 ポストコロナ期の大学教育と大学生のグローバル・コンピテンス
ー2024年日米韓台豪5カ国調査からみた日本の回答特性
○山田礼子（同志社大学） ○杉谷祐美子（青山学院大学） ○白川優治（千葉大学）
木村拓也（九州大学／大学入試センター） 堺完（桜美林大学） 塚原修一（関西国際大学）
森利枝（大学改革支援・学位授与機構） 渡辺達雄（金沢大学）
スティーブンソン ウィリアム（同志社大学：非会員） 孫世偉（青山学院大学：非会員）
山田亜紀（玉川大学：非会員）
- 10:30～11:00 総括討論

質保証・IR（Institutional Research）

司会：鳥居朋子（早稲田大学）

- 09:00～09:20 大学教育の内部質保証システムの再検討
－社会的成果を把握する必要性と改革の阻害要因の考察
○齊藤貴浩（大阪大学）
- 09:20～09:40 大学評価と教育の内部質保証のボトルネック解消のための人材育成について
○畠田敏行（大学改革支援・学位授与機構） 大野賢一（鳥取大学）
鈴木拓人（筑波技術大学） 稲垣大輔（大学改革支援・学位授与機構）
山本幸一（明治大学：非会員）
- 09:40～10:00 専門職大学院の質保証における「研究」の位置
－認証評価機関の評価基準の比較に基づく一考察
○丸山和昭（名古屋大学）
- 10:00～10:40 教学 IR への統計的因果推論の適用の意義と限界
－評価論の観点から
○西村君平（東北大学） ○呉書雅（岩手県立大学） 原田健太郎（東邦大学）
- 10:40～11:00 総括討論

高等教育研究者と組織の展望

司会：小方直幸（香川大学）

- 09:00～09:50 高等教育研究者のアカデミックキャリアパスと研究環境
－JAHER 会員調査 2024 より
○吉本圭一（滋慶医療科学大学） ○濱中義隆（国立教育政策研究所）
○稲永由紀（筑波大学）
- 09:50～10:40 大学教育研究開発系センターにおける組織と構成員の自律性
－インタビュー調査を中心に
○福留東土（東京大学） 吉本圭一（滋慶医療科学大学） 稲永由紀（筑波大学）
○高本尽（東京大学） ○吉田翔太郎（山梨大学） ○水谷耕平（青山学院大学）
○横原知行（東京大学） 鈴木拓人（筑波技術大学） 孟碩洋（一橋大学）
- 10:40～11:00 総括討論

入試・学生受け入れ

司会：南部広孝（京都大学）

- 09:00～09:20 なぜ「年内入試」が増えたのか
 －学生募集に関する全国調査の分析
 ○西健太郎（東京大学大学院）
- 09:20～09:40 デジタル広告時代における学生募集広報のビジネスモデル
 ○加藤毅（筑波大学）
- 09:40～10:00 学部・学科の改組転換2年目における入学定員充足率の要因分析
 －量的・質的アプローチ
 ○安田傑（大阪大谷大学）
- 10:00～10:20 中国における大学入試新制度の推進と課題
 ○王傑（慶應義塾大学）
- 10:20～11:00 総括討論

教職員

司会：河野銀子（九州大学）

- 09:00～09:20 大学における中途採用職員の組織再社会化プロセス
 ○宇佐美優里（東京大学／芝浦工業大学）
- 09:20～09:40 NSF と米国大学の協働が生み出す女性研究者支援の実践知
 －ADVANCE プログラムの制度運用に着目して
 ○木原友紀（東京大学）
- 09:40～10:00 大学女性教員の出産意思決定における態度と行動
 －計画行動理論に基づく考察
 ○潘秋静（山梨学院大学） 唐彬（北京航空航天大学：非会員） 操智（関西学院大学：非
 会員） 史媛媛（中国江蘇大学：非会員） 三好登（立命館アジア太平洋大学）
- 10:00～10:20 教育専任教員制度導入による意図せぬ結果
 －オーストラリア高等教育教職員組合に着目して
 ○佐藤万知（京都大学）
- 10:20～10:40 アメリカ高等教育における位相
 －大学教員と大学職員の視座の違い
 ○小島佐恵子（玉川大学）
- 10:40～11:00 総括討論

Ⅲ - 1 部会 A-117 教室

大学運営と機能強化

司会：小湊卓夫（九州大学）

- 11:10～11:30 大学における生成AIガイドラインの国際比較
ー生成AI政策のためのフレームワーク構築に向けた検討
○李明（大阪大学） 孟碩洋（一橋大学） 陳麗蘭（大阪大学） 村上正行（大阪大学）
- 11:30～11:50 大学にとってのオープンサイエンスの争点は何処に？
ー進むデジタル研究インフラの整備
○船守美穂（国立情報学研究所）
- 11:50～12:10 大学の機能強化に貢献する図書館職員の役割に関する一考察
ーアメリカの大学図書館管理職へのインタビュー調査をもとにー
○ティムソン ジョウナス（早稲田大学）
- 12:10～12:30 総括討論

Ⅲ - 2 部会 A-118 教室

大学史

司会：戸村理（東北大学）

- 11:10～11:30 創立期の女子高等教育機関における男性教員の貢献
ー女子英学塾の桜井彦一郎による出版事業に注目して
○片山里沙子（津田塾大学）
- 11:30～11:50 占領期の南原繁における「学問の自由」擁護の思想と戦略
○平塚力（京都文教大学）
- 11:30～11:50 学術雑誌・紀要にみる東京帝大文科系学部の「研究室」
ー明治20年代から昭和初期までを対象として
○今野翔太（東京大学）
- 12:10～12:30 総括討論

大学と社会

司会：福井文威（鎌倉女子大学）

- 11:10～11:30 講座構成からみた日本の大学公開講座の特徴と変遷
○菅原慶子（東京大学）
- 11:30～11:50 高等教育の拡大とスキルの普及の異質性
○鎌田健太郎（東京大学）
- 11:50～12:10 大学卒業者の成人教育参加
ー国際成人力調査（PIAAC）データによる国際比較
○相原総一郎（芝浦工業大学）
- 12:10～12:30 総括討論

地方大学と政策

司会：稲永由紀（筑波大学）

- 11:10～11:30 地方国立大学の経営課題
ー2024年度ヒアリング調査の結果と考察
○水田健輔（大学改革支援・学位授与機構）
- 11:30～11:50 韓国における地方大学支援政策による大学統合・再編のプロセスに関する考察
ー国立C大学ー国立K大学の事例を中心に
○鄭漢模（北海道大学）
- 11:50～12:10 中国の「双一流」事業採択校による地域活性化への貢献
○胡云潼（東京大学） 崔悦童（城西国際大学：非会員）
- 12:10～12:30 総括討論

留学生

司会：米澤彰純（東北大学）

- 11:10～11:30 学士課程段階における東南アジア出身留学生の日本留学決定プロセス
ーベトナムとマレーシアに着目して
○白石彩（東京大学）
- 11:30～11:50 韓国の留学生受入と質保証制度の変遷
ー教育国際化力量認証制に注目して
○塚田亜弥子（香川大学）
- 11:50～12:10 欧米圏大学からのオファーを受けた中国人留学生の日本留学動機と意思決定
○陳麗蘭（大阪大学） 孟碩洋（一橋大学） 沈文欽（北京大学：非会員）
- 12:10～12:30 総括討論

高校生の海外大学進学

司会：田中正弘（筑波大学）

- 11:10～11:30 量的データからみた高校生の海外大学進学
ー地域による違いを中心に
○朴澤泰男（国立教育政策研究所） 加藤真紀（名古屋大学） 太田知彩（筑波大学）
- 11:30～11:50 海外大学進学への進路指導（1）
ー実績校を事例に
○加藤真紀（名古屋大学） 太田知彩（筑波大学） 朴澤泰男（国立教育政策研究所）
- 11:50～12:10 海外大学進学への進路指導（2）
ー超進学校を事例に
○太田知彩（筑波大学） 加藤真紀（名古屋大学） 朴澤泰男（国立教育政策研究所）
- 12:10～12:30 総括討論

課題研究

(記載内容は、各課題研究の担当理事から提出された内容です)

学生と大学

学生参画のアプローチ

Students and Universities
Student Engagement Approach

「学生と大学」を主題とする課題研究Ⅰ(2年間)の一年目は、第一のステークホルダーとも言える学生と大学の関係を、戦略策定(ガバナンス)への参画(マクロ)といった学生参画のレベルに照準を定めて検討した。2024年度大会のシンポジウムでは、歴史・国際的な広がりを意識しながら、3名のスピーカーに、1960年代末の東大紛争における大学と学生との間のコミュニケーション、近年の香港で起きた大学紛争における大学執行部と学生の関係、トランスジェンダー学生の受験資格承認に至る過程等を事例として論じていただいた。ディスカッションによるコメントや総合ディスカッションでは、学生参画における学生の代表性や、チェンジエージェント(変革の担い手)としての学生の存在をめぐる論点等が抽出された。

これらの到達点や論点を引き受ける形で、二年目は主としてメゾレベルに照準をあて、学生参画の実現が論点となる具体的な場として、日本の大学における質保証・質向上のプロセスに注目する。2025年度大会の課題研究Ⅰでは、外部質保証からみた学生参画のあり方、内部質保証の文脈における学生参画の取り組み、チェンジエージェントへと成長する学生への支援のあり方について議論することとしたい。もとより、質保証は、相互に補完し合う関係にある外部質保証と内部質保証とで構成される。

第一報告者の工藤潤会員(中央大学)には、2025年5月開催(於東京)の高等教育質保証機関国際ネットワーク(The International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education: INQAAHE)カンファレンス2025での国際的な議論をふまえながら、外部質保証の観点から日本の大学における学生参画をめぐる課題等について報告いただく。大学基準協会常務理事/事務局長の経験を有する工藤会員には、同協会が2023年度に受審したINQAAHE外部評価で指摘された課題や、所属大学の状況等をふまえながら、2025年度からの第4期機関別認証評価における学生参画の位置付け等についても論じていただく。

第二報告者の川上忠重会員(法政大学)は、所属大学の大学評価室長として学習成果を基軸に据えた内部質保証システムの構築と実質化を推進する立場にある。そもそも学生FDやピア・サポートをはじめ学生参画の領域は多様であり、それらの領域は大学の学生参画への取り組み姿勢に大きく依存し得る。そのため、機関レベルでの学生参画の実現においては、自大学の特色をよく見極めたアプローチの選択が肝要となる。川上会員からは、個別大学の特色に応じた学生参画のアプローチや学生の代表性に関わる実態と議論について、所属大学の事例や全国の大学を対象にした調査等から得られた知見を報告いただく。

第三報告者の清水栄子会員(愛媛大学)は、日本アカデミック・アドバイジング協会の会長を務め、学生を成功に導くための支援体制や仕組みの追究を主導している。とくに、青年期の発達課題に向き合う若年層の学生が多数を占める日本の大学では、学生が自己決定的に参画し、教職員との協働経験を積み、質保証に積極的に貢献するチェンジエージェントとして力を発揮していくための適度な後押しという視点が不可欠である。この点で、大学が提供するアカデミック・アドバイジングが果たす役割は重要である。清水会員からは、アカデミック・アドバイジングに関する研究および実践の蓄積をふまえ、学生個人や他の学生の学修活動への参画(ミクロ)にも目を配りながら、チェンジエージェントとしての学生への支援のあり方や課題等について論じていただく。報告を通じて、高等教育研究としての到達点と新たな地平の展望をどこに求めるのか、また、日本の大学における学生参画の当事者支援のあり方について示唆を得ることとしたい。

さらに、ディスカッションとして、杉谷祐美子理事(青山学院大学)には、国内外の高等教育研究、また、文部

科学省中央教育審議会大学分科会質保証システム部会等での議論や高等教育政策の動向等、また近年の学生調査や学生論をふまえながら、大学における学生参画のアプローチの可能性や課題等について包括的な視点から論じていただく。とくに、近年の学生の大学観や学生間の関係性、消費者としての学生からチェンジエージェントとしての学生への変容、「学修者本位」から学修者が「主体」となるための教学マネジメントの課題、教職学による質保証・質向上に向けた合意形成や協働性の構築の課題等に触れていただく。以上の報告をふまえながら、フロアとともに議論を深めていく。

＊課題研究Ⅰの企画には、担当理事（米澤 彰純、鳥居 朋子）の他、川上忠重、清水栄子、杉谷祐美子、武寛子、田中正弘が参加している。

司会：米澤 彰純（東北大学）、武 寛子（愛知東邦大学）

- ・イントロダクション：シンポジウムの趣旨（15分） 鳥居 朋子（早稲田大学）
- ・認証評価における学生参画の位置付けと今後の展開（20分） 工藤 潤（中央大学）
- ・個別大学の特色に応じた学生参画のアプローチ（20分） 川上 忠重（法政大学）
- ・チェンジエージェントとしての学生への組織的支援（20分） 清水 栄子（愛媛大学）
- ・ディスカッサント：学生参画に向けたアプローチの可能性（10分） 杉谷祐美子（青山学院大学）

ディスカッション（35分）

高等教育の政治化とファンディングの国際比較

課題研究Ⅱでは、北米の動向を扱いながら、高等教育の政治化、それによるファンディングへの影響を議論します。世界的に政治状況が大きく変動する中、物価高騰、経済安全保障などの様々な動きが世界共通に起きており、大学の在り方そのものが政治的議論の対象にされつつあります。本課題研究では、2023年度に研究費ファンディングを扱いましたが、研究費ファンディングの動向は、そのことを単独で議論するのではなく、高等教育の政治化の文脈の中で捉えないと、現在起きていることは適切に把握することができないという理解に至りました。

そこで今回の課題研究では、特に大きな政治的変動が生じている北米に着目し、フランス語圏という特性をもつカナダ・ケベック州におけるナショナリズムを背景とした英語系大学に対する政治的動向、2025年1月の第2次トランプ政権の成立によって生じた大きな政治的変動がアメリカの大学・科学技術政策にもたらしている影響を取り上げます。指定討論には、科学技術社会論の立場からこのような動向をどのようにみるか、早稲田大学の綾部広則氏をお招きします。

なお、本課題研究では、2024年10月以降、オンラインでの公開セミナーを3回実施しました。そこでの議論を下敷きにしつつ、当日の議論を行います。

趣旨説明

両角亜希子（東京大学）

報告

1. 「カナダ・ケベック州における授業料をめぐる騒動」 高木航平（関東学院大学）
2. 「アメリカにおける大学に対する反DEIの背景」 吉田翔太郎（山梨大学）
3. 「トランプ政権成立後のアメリカの科学技術政策をめぐる動向」 遠藤悟（元日本学術振興会）

指定討論

綾部広則（早稲田大学・非会員）

司会

白川優治（千葉大学）・齋藤芳子（名古屋大学）

大会校企画
公開シンポジウム

日本高等教育学会 第28回大会 大会校企画

大学を開く

－ 学問分野間・組織間・社会へ －

<趣旨>

少子化が進展する中、大学を従前の方法で運営することが不可能になってきていることに、大学関係者の誰もが気づいている。「デジタル」「グリーン」等の理系分野の学部設置や文理融合教育の推進を目指す学部再編（文系学部の理系学部化）が政府主導で進められており、私立大学の公立大学化や学生募集停止などの組織再編・退場が現実のものとなっている。こうした厳しい環境下において、大学は、人材育成を担う中核組織として、いかなる中・長期的ビジョンのもとに教育の在り方を展望することができるのか。

日本の大学は、それぞれに「閉じた」組織として運営されてきた。すなわち、入学者選抜では優秀な学生を獲得するために競い合い、入学後は学生を教育組織に抱え込み、大学組織内の学生の移動（他学部の授業科目の履修）も大学組織間の学生の移動（編入・単位互換）も積極的に推進してきたわけではない。大学組織内では、学問分野を基盤に編成された独立性の高い部局（学部・専攻等）間の横連携は限定的であり、分野横断的な教育・研究・社会貢献の重要性が強調されていても、そのために育成すべきコンピテンシーや方法論についての研究・実践は始まったばかりである。大学組織間でも、競争的環境下にある大学同士で教育リソースを共有する横連携の発想は限定的であり、それぞれの強みを活かしながら人材育成機能を総合的に高めていくことを目指す先駆的・萌芽的取組が軌道に乗ったばかりである。大学と職業社会の縦連携も依然として限定的であり、大学で身に付ける学修成果と職場で必要とされるコンピテンシーを積極的にすり合わせることで、連続的な人材育成や学び直しを実質化するための制度的枠組が確立されている学問分野は多くない。

このシンポジウムでは、工学分野における分野横断的な横連携、四国地域における大学組織の横連携、看護学分野における教育と職場の縦連携を牽引してこられたリーダーを登壇者として、文部科学省高等教育局長をコメンテーターとしてお招きし、学問分野・大学組織・大学と職業社会の連携を通して大学を「開く」という切り口から、人材育成を担う中核組織としての大学の機能を強化していく方策について議論することで、日本の大学の未来を構想する手がかりを得たい。

司会：河野 銀子（九州大学男女共同参画推進室 教授）

講演：

● 学問分野を開く：

北村 隆行 氏（滋賀県立大学 高専開設担当理事／京都大学 元理事・副学長／
日本学術会議機械工学委員会機械工学分野の参照委準検討分科会 元委員長）

● 組織間で開く：

佐古 秀一 氏（鳴門教育大学長／四国地域大学ネットワーク機構 代表理事）

● 社会へ開く：

内布 敦子 氏（敦賀市立看護大学理事長・学長／
日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会 元幹事）

● コメンテーター：伊藤 学司 氏（文部科学省 高等教育局長）

総合討論：

● モデレータ：深堀 聡子（九州大学未来人材育成機構 教授）

国際委員会主催企画
ランチミーティング

留学生・外国人研究者との交流

<趣旨>

留学生・外国人研究者が日本の大学で研究を進めていく上での悩みを話し合いながら、参加者同士で交流します。関心のある日本人の学生や研究者の積極的なご参加をお待ちします。

情報提供：王帥

挨拶：中井俊樹

進行：鄭漢模

海外での調査や滞在に関する情報共有

<趣旨>

研究目的で海外での調査や滞在を考えている方を対象として、現地での活動を一層充実させるために知っておくと良い情報、疑問や悩みを話し合いながら、参加者同士で交流します。

情報提供：長沢誠

挨拶：福留東土

進行：坂本規孝

- 事前申込は、2025年5月28日(水) 17時まで以下のフォームで受け付ける。
(<https://forms.gle/kmxEP4iP17vLpLJp9>)
- 参加費は無料。
- 途中参加可、途中退場可、ランチミーティング間の移動可。
- 当日の飛び入り参加も歓迎します。
- 各自で昼食をお持ちの上ご参加ください。対面のみで開催です。
- 問い合わせ先：坂本規孝（国際委員、n-saka@hiroshima-cu.ac.jp）



日本高等教育学会 第28回大会
国際委員会主催



ランチミーティング Lunch Meeting

5/31

SAT

時間 12:10~12:55 (入退室自由)

場所 イースト2号館D-106&107

日本人、外国人の会員が昼食をとりながら、自由に情報交換・交流できる企画です。国際交流や海外での調査活動などに興味のある会員は是非ご参加ください。

※申込方法: **事前申込** (人数把握のためおすすめします。)、当日参加もOK!
<https://forms.gle/kmxEP4iP17vLpLjp9>、または、右下のQRコードをご参照ください。

ランチミーティング①

留学生・外国人 研究者との交流

留学生・外国人研究者が日本の大学で研究を進めていく上での悩みを話し合いながら、参加者同士の交流を目的とする企画です。

イースト2号館
D-107教室

ランチミーティング②

海外での調査や 滞在に関する情報共有

海外渡航が再開する中、今後研究目的で海外での調査や滞在を考えている方を対象に、情報共有・交流を目的とする企画です。

イースト2号館
D-106教室

●主催
日本高等教育学会
国際委員会

●お問い合わせ
坂本 規孝 (国際委員会 委員)
n-saka@hiroshima-cu.ac.jp



ユニバーサル化時代の大学はどうあるべきか

ボーダーフリー大学の社会学

葛城浩一 著

学生数の減少により、「ボーダーフリー大学」が増加している。事実上の全人状態にある大学での学習・教育・研究はどうなっているのか。日本の高等教育が抱える構造的な問題であるボーダーフリー大学の実態を通して、大学のあるべき姿を探る。

A5判・236頁 3300円

大学SD講座

大学教育の国際化

中井俊樹・宮林常崇 編

大学職員の視点から海外留学や外国人留学生の受け入れなど国際化に伴う幅広い知識をまとめた一冊。必要な知識を大学職員が網羅的に身につけられるよう、業務に役立つ内容をその背後にある理論や法令と関連付けて紹介する。

A5判並製・220頁 2640円

今に生きる学生時代の学びとは

卒業生調査にみる大学教育効果

矢野眞和 著

「大学で学んだことは社会で役立たない」よく聞かれるこうした発言は果たして的確を射ているのか。膨大な卒業生調査のデータを、社会工学や統計分析の知見を活かして実証的に分析。その結果浮かび上がった、卒業後に生きる大学の教育効果の真の姿とは。

A5判・336頁 3520円

大学教員の能力開発研究

ファカルティ・デベロップメントの構造と評価

佐藤浩章 著

コロナ禍は図らずも史上最大規模のFD (Faculty Development) を国内各地や全世界にもたらし、大学教員とFDの変容を加速させた。国内外の大学教員の能力開発の構造と評価をその発展と実態により明らかにし、研究と実践の双方からこれからの時代と社会に相応しいFD概念を提言する。

A5判・232頁 4950円

大学のIRと学習・教育改革の諸相

変わりゆく大学の経験から学ぶ

鳥居朋子 著

大学における学習・教育に関するマネジメントやIRの在り方を、国内外の特色ある事例を基に追究。個別大学のケース・スタディを紹介し、組織がデータに向き合う際の目的や問いにどのように取り組んでいくのか、その方法から今後のIRの姿を探る。コロナ禍の大学の取り組みも紹介している。

A5判・188頁 4180円

カリフォルニア州高等教育マスタープラン

アメリカ大学モデルの創出 1850-1960

J・A・ダグラス 著 荒井克弘・田中義郎 監訳

1960年に策定されたカリフォルニア州の高等教育計画であるマスタープラン。3セグメント・システムを基本とするその内容と、時代の波に翻弄され激しい政治的交渉を経て実現に至った歴史的歩みが示される。格差が拡大する今、公的な教育機会の平等を目指したビジョンを振り返る意義は大きい。

A5判・504頁 8250円

日本のゼミナール教育

人文社会科学領域等の学士課程教育における学習共同体の姿

西野毅朗 著

古くから重要視されながらも、あまり実態が把握されてこなかった日本のゼミナール教育の特徴を多様な角度から分析。歴史的経緯、現状と課題、さらに学生の学びの様子と社会とのつながり等、歴史的・量的・質的研究アプローチを用いて明らかにする。

A5判・324頁 4400円

学習成果の可視化と内部質保証

日本型IRの課題

山田礼子・木村拓也 編著

本書では、2010年から10年間の実践を基に、IR、学生調査、ポートフォリオというツールを統合的に利用しながら高等教育の内部質保証に向けた課題を整理し、そのグッドプラクティスを例示する。日本の高等教育研究者に向けて、今後の学習成果の可視化と内部質保証の手がかりを提案する。

A5判並製・232頁 3740円

シリーズ大学教育の質保証

学習成果の評価

竹中喜一 編著

学習成果の評価とその評価結果の活用方法について実践的な知識を体系立てて提示することで、大学教育の質保証に関わる教職員を支援する。特にカリキュラムにおける学習成果に着目し、設計から改善までの流れを記述。多様な実践方法の選択肢を提示し、読者が現場でアレンジできるヒントも盛り込む。

A5判並製・204頁 2200円



内部質保証システム確立のための 客観的アセスメント**PROG**のご案内

PROGとは、専攻・専門に関わらず、**社会で求められる汎用的能力（思考力・基礎力）**を測定し、育成する**ためのプログラム**として、学校法人 河合塾と株式会社リアセックが共同開発したアセスメントです。2012年のリリース以降、「主体的な学びへの支援」、「成長の可視化」、「教学改善の基礎資料」として多くの大学様にご利用頂いています。（2023年度実績：約300校 23万名受験）

自己点検と認証評価の エビデンス

学修成果の可視化

3ポリシーの検証

教学マネジメントの 基礎資料

教 学 I R

PDCAサイクル

学生の主体的な 学びのサポート

強み・課題の把握

能 力 開 発

PROGの特徴

- 特徴1 **測定項目が多く**、自学のDPにおける強み・課題の把握が可能
- 特徴2 自己評価ではなく、**客観的に測定が可能**（信頼性・妥当性検証済み）
- 特徴3 **導入実績が多く**、他大学と比較した自学の強み・課題の可視化が可能
- 特徴4 主体的な学び / 自己PR作成等、**学生支援ツールが充実**



出典：平成28年3月9日開催 中央教育審議会大学分科会大学教育部会（第43回）資料をもとに作成

PROGの主な活用例

- 活用1 学生のキャリア支援や、**主体的な学びの支援**として
- 活用2 DPの効果検証を通じて、**教学改革の基礎資料**として
- 活用3 IRを通じて、**入試施策の効果検証や、成長要因の分析**として

学生様向け

自分の強みや課題がわかる
結果報告書 抜粋（全10P）



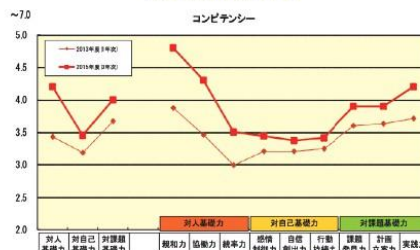
学生様向け

強みや課題の伸ばし方がわかる
「PROGの強化書」(能力開発ガイド)



教職員様向け

他大学との比較や、成長を可視化できる
「全体傾向報告書」



PROG資料ダウンロード <https://www.riasec.co.jp/prog/>

株式会社 リアセック

衡平な大学入試を求めて

カリフォルニア大学とアファーマティブ・アクション
ジョン・A・ダグラス／木村拓也 監訳 A5判 466頁 3300円

アメリカ高等教育のガバナンス改革

カリフォルニア大学の自律と統制をめぐる葛藤
中世古貴彦 A5判 252頁 3960円

ドイツにおける教育学の発展史

二十世紀ドイツの教育科学
クラウス・ペーター・ホルン／鈴木 篤訳・解題 A5判 386頁 7480円

日本における教育学の発展史

教員の集合的属性に着目したプロソポグラフィ
鈴木 篤 A5判 590頁 9680円

日本式教育の海外展開とインパクト

往還する高専／KOSENと日本式国際学校の新潮流
竹熊尚夫 編著 A5判 344頁 5280円

大学と社会を結ぶ科学コミュニケーション

小林俊哉 A5判 156頁 4180円

博士号につながる

「教科教育実践学」論文の書き方

院生・修了生・教員が明かすアクセプトの秘訣
菊地 章 編 A5判 164頁 2640円

中国近代における「国語科」の創成

胡適の思想的模索
山下大喜 A5判 196頁 5170円

教育社会学 第三のソリューション

ハルゼー他編／住田正樹・秋永雄一・吉本圭二 編訳 A5判 672頁 9570円

〒819-0385 福岡市西区元岡 744 九州大学構内
<https://kup.or.jp> info@kup.or.jp 《価格税込》

九州大学出版会

第28回大会 協賛企業 一覧

株式会社 東信堂
玉川大学出版部
株式会社リアセック
(財)九州大学出版会

日本高等教育学会 第 28 回大会実行委員会

委員長	木村拓也	(九州大学)
副委員長	深堀聰子	(九州大学)
副委員長	河野銀子	(九州大学)
事務局長	小湊卓夫	(九州大学)
事務局次長	中世古貴彦	(九州産業大学)
事務局員	大津正知	(茨城大学)
	金子研太	(九州工業大学)
	陣田内美	(九州大学)
	江藤智佐子	(久留米大学)
	岡靖子	(琉球大学)
	酒井佳世	(久留米大学)
	坂巻文彩	(長崎外国語大学)
	陣内未来	(京都工芸繊維大学)

(2025 年 4 月 20 日現在)

協力 九州大学大学院人間環境学研究院・教育学部
同 基幹教育院 次世代大学教育開発センター

日本高等教育学会第 28 回大会プログラム

作成：日本高等教育学会第 28 回大会実行委員会

